

東ティモールで手作業でコーヒー豆の仕分けをする人達

ともしび
共生委員会ニュース

2016 年度　1 号

2016 年 5 月 6 日版

共生委員会ニュース「ともしび」　　スクールモットー「地の塩、世の光」

共生・校外学習委員会は平和や共生に関わる活動、修学旅行などを担当する教員の委員会です。原爆投下の地、長崎を訪れる 2 年生の修学旅行だけでなく、高等部の 3 年間の生活を通じ、同じ社会に共に暮らす様々な人々との関わりに目を向け、平和や共生の問題を考えていきましょう。この共生委員会ニュースでは、様々な経験をする機会を得た生徒や教員の声も他の多くの皆さんへ届けたいと思っています。その経験を共有し、一緒に考えるきっかけとして下さい。

高等部の平和・共生学習

修学旅行、各教科の授業など 3 年間を通して平和と共生について学んでいきます。平和共生 LogBook に一人ひとり違った足跡を残しながら、考えていきましょう。

3 年間の流れを紹介

1 年生

聖書　「命のヴィザ」杉原千畝の生き方を通して

国語総合　遠藤周作とアウシュビッツ・沈黙

英語　Playing the Enemy（人種差別政策アパルトヘイト撤廃後の南ア ラグビーワールドカップ）

生物　放射線被曝の影響

2 年生

聖書　「願わくば、われ、太平洋の橋とならん」新渡戸稲造の生き方を通して

現代文 B　戦争に関するテーマ(内容未定)

日本史 A(現代史)　太平洋戦争、アウシュビッツ収容所、原爆の歴史

現代社会　日本国憲法第 9 条

英語　Life in a Jar

物理　原子力と核兵器

修学旅行　平和講話、長崎原爆資料館、キリシタン弾圧の歴史

3 年生

聖書　“I for Japan. Japan for the world. The world for Christ. And all for God.”
内村鑑三の生き方を通して

現代文　共生に関するテーマ（内容未定）

英語　（内容未定）

平和共生に関する個人論文作成

その他

グローバルウィーク

学問入門講座「共生と平和」

岩手県立宮古市の高校との交流

フィリピン訪問プログラム

平和・共生に関する活動に興味がある人は、声を掛けて下さい。

武藤、相良、藤本、中久木、キャロル、ベリーまで

グローバル性と隣人に対しての問い

相良　昌彦（宗教主任）

グローバルという概念がグローブ（球）から来ていることを私たちは知っています。そしてすべての球はその中心を持っています。グローバルに生きること、それは、一つの中心との距離を等しく持って生きることであり、この Dorotheus の隣人の捉え方、隣人との生き方の考えは、私たちにひとつの真理を示しています。

6 世紀の修道士　Dorotheus of Gaza は、隣人を愛すること、自分を愛すること、神を愛することへの洞察の中で、人を大切にする思い無くして、人は神を愛することはできないと言っています。彼の言葉の一節を紹介しましょう。「ここにコンパスを手にして円を描いているとしよう。中心から等しい距離の点による図形である。この円が世界であり、神がその中心であると仮定し、円周状の点と中心を結ぶ半径を人間の人生と考える。人は生き方によって半径を変える存在である。つまり人と神との距離が縮まると、円周状の人間同士が近づくことになり、同時に円周状の人と人が近づくとき、誰もが神と近くなることになる。」"Discourses and Sayings, Dorotheus."

良きサマリア人の話

10:25 すると、ある律法の専門家が立ち上がり、イエスを試そうとして言った。「先生、何をしたら、永遠の命を受け継ぐことができるでしょうか。」10:26 イエスが、「律法には何と書いてあるか。あなたはそれをどう読んでいるか」と言われると、10:27 彼は答えた。「『心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい』とあります。」10:28 イエスは言われた。「正しい答えだ。それを実行しなさい。そうすれば命が得られる。」10:29 しかし、彼は自分を正当化しようとして、「では、わたしの隣人とはだれですか」と言った。10:30 イエスはお答えになった。「ある人がエルサレムからエリコへ下って行く途中、追いはぎに襲われた。追いはぎはその人の服をはぎ取り、殴りつけ、半殺しにしたまま立ち去った。10:31 ある祭司がたまたまその道を下って来たが、その人を見ると、道の向こう側を通って行った。10:32 同じように、レビ人もその場所にやって来たが、その人を見ると、道の向こう側を通って行った。10:33 ところが、旅をしていたあるサマリア人は、そばに来ると、その人を見て憐れに思い、10:34 近寄って傷に油とぶどう酒を注ぎ、包帯をして、自分のろばに乗せ、宿屋に連れて行って介抱した。10:35 そして、翌日になると、デナリオン銀貨二枚を取り出し、宿屋の主人に渡して言った。『この人を介抱してください。費用がもっとかかったら、帰りがけに払います。』10:36 さて、あなたはこの三人の中で、だれが追いはぎに襲われた人の隣人になったと思うか。」10:37 律法の専門家は言った。「その人を助けた人です。」そこで、イエスは言われた。「行って、あなたも同じようにしなさい。」



3.11 チャリティーコンサート

中久木　眞治（国語科）

去る 3 月 11 日、五木ひろしチャリティーコンサートがＰ.Ｓ講堂で行われましたが、それに先立って、青山学院の宮古におけるボランティア活動の報告が行われました。この中で高等部生徒会は、2011 年の震災直後から、宮古高校ラグビー部、翌年は野球部と親善試合を行い、さらに文化祭への招待や相互交流を通じて宮古高校と親交を結んできたことを報告しました。また、昨年からは宮古北高校との交流を開始し、文化祭への招待やわかめ・昆布の販売を通して大きな貢献をしていることを説明しました。現在も卒業生が中心となり「ＦＯＲ会」を開催し、宮古の高校生「ＳＹＭ～宮古の輝く若者たち～（ＮＰＯ団体みやっこベース）」とコンタクトを取りながら大きな成果を上げていることが報告されました。

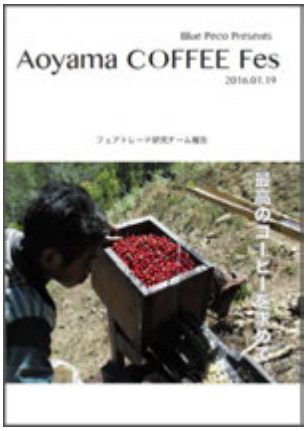


代表を務める宮古高校生の吉浜さんは、「宮古を好きではない、という若者が増えていることにショックを受け、もっと地元を大切にして復興を加速させようという思いでこの団体を立ち上げた。青山の生徒さんと交流しながら、宮古の良さを発信していきたい」という趣旨の発言をされていました。当日はコンサート開始時間まで高等部の生徒会役員とも活発に交流し、意見交換をしていました。生徒会三者協議会の福田さん（二年）は「吉浜さんを始め、みなさん大変大人の考え方ができるのでびっくりしました。これからもそれを見習いながら、交流を続けたいです」と話していました。

コンサート自体も五木ひろしさんが時間オーバーするほどの熱唱に次ぐ熱唱で、トークも大いに盛り上がりました。また、エントランスで販売された三陸の昆布やわかめも飛ぶような勢いで、あっという間に完売しました。全体に大変有意義な交流やチャリティが行われたと思います。これからも、卒業生や生徒会を通して宮古市や宮古の教育機関との絆を深めていきたいと思っています。



ブルーペコとフェアトレード・コーヒー



2007 年に立ち上げられた生徒による自主学習団体ブルーペコは現在約 30 名の会員で活動しています。今は主にフェアトレードについて学習しており、9 月に開催される文化祭では、毎年継続的に東ティモール産のフェアトレード・コーヒー豆の販売を行っています。

【 フェアトレードコーヒーを扱う企業 訪問 】

昨年 12 月 28 日（月）には株式会社ゼンショーホールディングスを訪問し、フェアトレード部の池田俊幸さんにお会いして、コーヒー市場とフェアトレードの関係について伺いました。また、「コーヒーの味を最大限引き出すための研究をしている」というコーヒー研究所を見学させてもらいました。

【 Aoyama COFFEE Fes 開催 】

学習した成果を共有するために、1 月 19 日（火）にカフェテリアでコーヒーフェスを行いました。学習したことを冊子やポスターで発表し、東ティモールのフェアトレード・コーヒーを試飲するとともに、調理研究同好会が作ってくれたパウンドケーキを食べました。また、このイベントを盛り上げるために生花同好会がお花を飾ってくれました。このフェスでは特別ゲストとして、特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパンの東ティモール現地駐在員である永井亮宇さんをお招きし、東ティモールの現状についてお話していただきました。

【 参加生徒の感想 】

永井さんは東ティモールに滞在している時に東ティモールの人がお皿を洋服用の洗剤で洗っていて驚いたと言っていました。それはその村まで食器用洗剤が届かないからだそうです。いくらお金を手にする事が出来るようになっても物資の供給が行き届かなければ貧しいままで変わらないと聞いて驚きました。そこから、一人一人だけを見るのではなく、村全体を豊かにしないと意味はないのだと感じました。

また、エチオピアで生まれたコーヒーは長い歴史の中で交配が進み、東ティモールではティモールハイブリッドと呼ばれるコーヒーへと変わっていきました。これは誇れる事であり、もっと色々な人に東ティモールのコーヒーを知ってもらいたいし、東ティモールの方々には胸を張ってコーヒーを生産して欲しいと思います。

HR 304 M.T.

今後も第二回コーヒーフェスなどを開催していきますので、

どなたでも積極的にご参加ください。

